

第4回習志野市学校施設再生計画検討専門委員会 議事録	
開催日時	平成25年3月15日(金) 18:00~20:00
場 所	習志野市役所仮庁舎3階大会議室
出席者	[委員] 根本委員長、長澤副委員長、倉斗委員、柳澤委員、大塚委員、小池委員 [事務局(学校教育部教育総務課)] 植草学校教育部参事、吉川学校教育部参事、田久保学校教育部次長、 飯島教育総務課長、松本学校教育部主幹、島本学校教育部主幹、 篠宮主査、下田主任主事、三橋主任主事 [関係部署職員] 岡田資産管理課主幹
議 事	・習志野市学校施設再生計画に対する提言書(案)について

傍聴者：4名

【次第】

1. 開会
2. 議事
 - ・習志野市学校施設再生計画に対する提言書(案)について
3. 報告
 - ①今後の取り組みについて
 - ②その他
4. 閉会

開会

議事

- ・習志野市学校施設再生計画に対する提言書(案)について
〔資料に基づき、事務局より説明〕

委員 長 それではこれから議論をしていただきますが、提言書(案)の記述のない項目を中心に、また、最後の更新の財源の項目や、学校数や学級数の記述箇所などご意見をお願いします。特に児童・生徒の数も推計が出ている

ので数字をみていこうと思えばできるんですけど、いろんな方法がありま
すと書いて終わるのか、本当にそれで足りるのかと検証をかけるのか、そ
れはどちらなんですか。

事 務 局 資料で別刷りで平成40年度までの推計を出させていただきましたが、
推計は数字が一人歩きするので、非常に出すのが難しいんですが、前回は
0歳児が小学生になる平成30年度までの推計を出しましたが、31年度
以降はその学校のあるコミュニティの人口推計を基に増減等をみながら
児童・生徒数の推計をしたものになっています。この表はそこから特別支
援学級を除いたもので、網掛けの箇所、例えば左から2番目の大久保小学
校については29学級から25学級ということで適正規模を超えた所が
平成31年ころまで続きますが、その後は減ってきて適正規模の中に収ま
っていくような推計であります。

また、袖ヶ浦西小学校、袖ヶ浦東小学校というのがありまして、袖ヶ浦
西小学校については12学級を下回るところから、だいたい12学級程度
を推移していこうと。一方、袖ヶ浦東小学校については、現在は12
学級ですけども、将来的にはかなり減ってきて40年頃には6学級程度
になっていこうというような推計です。同じような傾向としては向山
小学校は現在も10学級で、一時的に増えますけれども、将来的には6学
級に減っていくだろうというところがこの資料からわかります。トータル
的には、特別支援学級は除いてますけど、右側の全学校の平成24年度現
在、288ある学級数が40年度には242になるということで、40以
上の学級数が減っていくという推計になっています。それから、2枚目は
中学校の学級推計でして、網掛けの部分が18学級から24学級に入らな
いところで、やはり全体的には減少していく傾向があって、平成24年度
から40年度にかけて12学級程度減っていくという推計になっていま
す。ただ、推計というのは非常に難しく、平成30年度以降はコミュニ
ティの人口の減少の傾向等をみた中での数字であります。これをみて、
この数字で提言書に具体的な総量の圧縮というように書けるかとい
う難しい面があります。

委 員 長 そこまでいくのかどうかということをまず決めなくてはならなくて、ち
ょっとおおざっぱに計算してみたんですけど、適正規模の学級数の真ん中
の数字を取ると、小中学校合わせて2校減るだけなんです。そうすると
23校が21校になるだけで、財源が約15億円しかないですから解けな
いですよ。解けない答えを書くわけにいかないですから、解けるかどう
か検証しなくてはならなくて、そういう意味では提言に書くかどうか別と
して、計算はしっかりやらないと、すごくのんびりしたものを書くことに

なって、長くやっていくと、やっぱり足りませんでしたということになってしまいますよね。ちなみに、今のはミドルケースですけど、ミニマムケースの場合にようやく13億くらいになるんですよね。単純に計算すると、学校を大幅に統廃合してもそれ以外の施設に割ける財源は2億しかないということなんですよ。

我々が考える前に行政の方でしっかり覚悟を決めてもらわないと、ありとあらゆる事をやっても、おいつかないんですよという話になってしまいます。暗算でできる範囲のざっくりとした数字的な作業はできますか。ちょっとその意味では最初に数字の裏付けをもったまとめをしていくのと、相当な危機感を持たないとこの問題は解決できない。できない原因というのは老朽化率の異常な高さであるとか、財源の不足とか。今までのつけをこれから我々や次の世代が負っていかなければならないので、そこはしっかり負担者としての意識を持ってもらわないといけませんよね。

それでは、数字の話は市の方で作業をしてもらって、記述のない項目を中心に、あるいは、全体でも構いませんけれども、方向性なり、個々の論点でご意見をいただければと思います。

B 委 員 今のお話に関連するかもしれないですが、資料の20ページに学校の適正規模について紹介されていますが、ここには文科省の基準も載っています。これで学級推計の資料をみると、習志野市は逆に増やさないといけないのではないかと、意外と減らないなという印象を受けたので、そういう現象がある中で提言書の中にこの適正規模の数字を出すのがいいのかどうかというところを疑問に思いました。

事 務 局 前日もご議論いただきましたが、実際増やさなければならないようなところもあるんですけど、そういう中でも基準を一律に決めるのではなくて、習志野市の学校の特色を活かした中で学級数などを別途定めていくということなんですけど、今、委員長からお話があったような、ある程度数字的なものを詰めていって、どこか基準がないとデータができないというようなこともあって、前回の委員会でもいただいた意見をそのまま記載してみたのですが、この辺りをどのようにしたらよいかというのがありましたらお願いします。ただ、実際に学校を運営していく点から考えると、あまりに大きかったり小さかったりする学校は望ましくないという中では習志野市としてもこのくらいの数字かなと思っています。

事 務 局 学級数については、学校教育法施行規則では12学級から18学級、望ましいというところでは12学級から24学級とありますけれども、今までも習志野市の場合、小学校が1学年5学級で6学年で30学級ということもございましたが、教育課程で考えていくと、1週間に5日間、6時間

目まで最大限使ったとして30時間になります。そうすると、1つの体育館で体育を1時間ずつ割り振ってやろうとすると、30学級が上限となって、それ以上になると、体育館での授業というものが工夫の中で1時間に2学級展開するような状況になってきます。なので、学校規模が過大になった時に教育課程に支障が出てくると思いますので、その表現をどのようにしていくのがよいかというのがあります。

B 委 員 適正な学級規模というのが、この委員会の主旨と実データにギャップがあるというか、言っていることとつじつまが合っていない印象を取られてしまうように思います。

事 務 局 このところを除いてしまった方がよいでしょうか。

委 員 長 1つには推計の期間が短いというのがあります。

B 委 員 おそらくもっと減っていくんでしょね。

委 員 長 60年の耐用年数の学校をこれから建てていくので、真ん中の30年くらいみるのが普通の長期シミュレーションなので、その半分だからまだ減り始めていない。

事 務 局 習志野市の地域のポテンシャルとして、まだ開発できるような土地があったりとかですね。地方の減り方と首都圏の減り方、まちづくりの面からも若い世代を呼び込みたいという面もありますので、今の現状のやり方で伸ばして、減らしていった時に、実はそれほど減らないというのもありますので、長い期間のものを作ろうとすれば作れるんですけど、それに基づいて全体の計画を立ててしまうと、こういうケースもありますよというのは作っていかねばというのはもちろんわかりますが、それをこの提言書の中にそこまで入れていただけるのか。

委 員 長 この前提で言ったら、さっき言ったように全く足りないという答えになってしまいますが、そういうわけにはいかないんで、学校数がさらに減るケースとあんまり減らないケースの2つぐらいあって、学校をあまり減らさない場合はそれ以外のものをほとんど全部廃止にするぐらいのつもりにならないと答えは出てこないですよ。だから3つか4つぐらいの選択肢、委員会でこれがいいんだというのは決めないけれども、トレードオフの関係にあるわけですよ。学校を守ろうとするとそれ以外の財源がなくなるというところを市民に理解してもらおう。どれを選択するかは市民の判断だけれども、いいとこ取りはできないということは数字で言っていけないと説得力がないですよ。そういう意味で24学級という数字は良い数字でこれを取っ掛かりにして、24だったらこうなりますよ、30だったらどうなるんだというのがあるので、それも計算することができる。おそらく30だと5億ぐらいの財源で、まあまあそれなりにできるかもしれない

い。だけど、財源の制約で30学級と決めるわけではないので、あくまでもそれは学校に強要できることではないので。決めつけないでオプションを用意して、そのオプションの考え方が出ているという感じですかね。量以外で負担を減らす方法もあるので、それはまた数字は数字として織り込んでいかなければいけません。

A 委員 「適正規模を下回っている場合」に「適切な移行期間を設けたうけで、原則として統廃合を検討するものとする。」と書いていますが、要するに12学級が最低というか、単学級は基本的には認めないで、それが続くようであれば統廃合の対象としていくことだと、習志野市としてそういうビジョンを出すのか、一方で単学級であっても複合化をすることによって残すという考えもあるとは思いますが、この辺が複合化とか多機能化とか言っておいて、一方で単学級になりそうだったら全部統廃合の対象になるのか。その辺が財源とも絡むんですけど、複合化ということになると他の公民館だとかと整理しようとしてた予算を使うんですけど、単純に学校を廃止して財源として生み出されたのがオプションなのか、全体の方針なのか、ケースバイケースで対応するのか、その辺がちょっとわかりにくいですよ。

委員長 学校を何に使ったとしても23億かかるんですが、10億しかないので、学校数の見直しはやっぱり必須なんですよ。さらに複合化もしなければならぬ。何をどの程度すればどの程度効くようなところも数字の議論をしっかりとしていかないと優先順位がつけられない。

副委員長 今回の議論で、小学校と中学校を同じ扱いをして、小学校は12から24、中学校は18から24ということですけども、習志野市がこれまでコミュニティ区と学区を重ねながらまちづくりをしてきたということをベースにすると、あるエリアで小学校も中学校も無くなる可能性がある。小学校と中学校は分けて考える必要があるのではないのでしょうか。

私は本当は減らしたくないけれども、財政的に成り立たないと言われると、それ以上言えないんですけど、その時に小と中を、例えば小学校はコミュニティ区と対応した数を確保して中学校は少し弾力的に考えていく、あるいは逆に中学校をベースにして小学校は思い切って、国のというより習志野市の学校規模を整えながら圧縮していく、そういうシミュレーションはないのでしょうか。文科省の数字をベースにすると目立った効果はないと言われてしまいますし、むしろ学校を地域の核としてとしての役割を小と中のどちらかはきちんと担保していく、それから小学校をベースにする方がいいのか、中学校をベースにする方がいいのか、財政的な数字を作るのか、その辺の検証も必要な部分かなと思います。これまでの行政のま

ちづくりとの整合性の担保、結果としてどうなるかわかりませんが作業は
してみてください。

事務局 習志野市のまちづくりのこれまでの取り組みからすれば、コミュニティ
ごとに小学校を整備することで小学校が中心になっている。しかしそうす
ると施設をかなり維持する必要があるので、財政的な観点からだけいえ
ば、中学校区でやった方がよいというのはありますが、子ども達が通う範
囲や複合化した施設に来る市民の移動のことを考えると非常に難しく、な
かなか市としてもまとめづらいところであります。

副委員長 アイデアとして、検討してみしてほしいという課題だけの話です。も
う1つは学校そのものをなくすだけではなくて、クラス数が減ることに対
応する減築という考え方、個々の学校で保有量を減らすというようなこと
もあるわけですけど、その辺についてはどう考えていますか。

事務局 それは必要なことだと考えていまして、多機能化を図る中でスケルト
ン・インフィルを導入するんですが、子どもが減ってきて、クラス数も減
ってきて、スケルトン・インフィルで地域の部分を増やしていくんですが、
学校として運営していく部分があるので、減ってきたからと言って単学級
の学校が学校運営の面から良いのかということも考えていかなければなら
ないというのがあります。公共施設再生側から言えばそういった理屈だ
けで言えるが、学校施設再生となると学校運営が非常に重要になるので、
そこをどうまとめていくのかという課題があります。

B 委員 秋津小、香澄小、第七中学校は同じコミュニティであり、資料を見ると、
いずれも今言っている適正規模を下回っています。やはりコミュニティご
との差があるなという印象を受けますので、例えば、提言書の21ページ
のAの「適正規模を下回っている場合」の書き方として、「原則として統
廃合を検討するものとする。」とありますが、統廃合を小・中併設や複合
化などのような形で幅広く捉えていける方が、すぐに統廃合よりはコミュ
ニティに合った考えがしやすくなるのかなと思います。

事務局 確かに、秋津小、香澄小の校庭は比較的広く、近いですね。

副委員長 提言を出した後に、今のような個別の検討というのをしていきますか。

事務局 そうですね。この提言でいただいたものをベースに市として学校施設再
生計画を作っていきます。

A 委員 具体的な手法などは次の段階でやっていくということですね。例えば、
廃校にした場合と複合化した場合にどうコストが変わっていくか。

事務局 今、いろいろとご意見をいただいて、提言と言ってもやはり中に数字的
なものを入れて、シミュレーションをして、こういう場合はどうなるとい
うのが出てないと、この先につながらないというのがあると思います。

A 委 員 提言だけして、やってみたらできなかったというわけにはいかないの
で、ある程度裏付けが、表には出さないとしても必要。言ったことに対し
て責任が持てるかという話もありますので。

委 員 長 入っていない項目もある気がしますので、それを追加して、それぞれの
項目ごとに微妙なニュアンスとして入れておいて、最後にいくつかのパタ
ーンによる選択肢を示して、どれが良いとは言わないけれども、メリッ
ト・デメリット、良い点・悪い点がありますよとして今回は終わる感じで
すかね。そのためには数字がしっかりないと。次のステップでその中のど
れか、あるいは組み合わせになるかもしれませんが、選んで具体的に進め
ていくことになりますね。

おそらく財源確保策の検討のところに入るんでしょうけど、増税という
のはあるんですかね。増税をタブー視していると本当に解けないので、学
校も大事だ、図書館も大事だ、公民館も大事だとそれぞれの方がおっしゃ
るんだったら、増税になるんですよ。1人あたり年間どれくらいになるか
わかりませんが、レジ袋税を導入しているところもあるので、やろうと思
えばできるんですよ。かなりそのくらいまで考えないといけない状況なの
で、あれも欲しい、これも欲しい、税金は上げるなというのは無責任なの
で、責任感を持ってもらうためにはそういうことも必要だと思います。

A 委 員 24ページ(5)の圧縮と(6)の財源確保は何を想定していますか。
そこまで踏み込むのか。例えば、学校で使わないところが出てきたら収入
が上がるようなものにするとか、先ほど公民館は有料化しているという話
がありましたが、どのように圧縮する、あるいは収入を増やすかという点
からの確認です。

委 員 長 そういう意味で言うと、未利用地の活用、そうしろと言うわけではない
けど、廃校が出ればそこを売るというのが一番効きますよね。

A 委 員 あとは学校は残しながら、部分的に売却するのか、貸すのかというのが
可能性としてありますね。

委 員 長 そういう意味でのアイテムとして具体的に入っていないがあるので、
それをどんどん出していただいて、できるだけありとあらゆることをやっ
ていくという、そういう検討をしないといけない。通常だったら利用料の
引き上げが最初にくるんですけど、学校の場合それがないので、収入の増
加策というのはなかなか難しいですね。それから、23ページに維持保全
の話がありましたが、今は維持管理にあまりお金をかけていませんが、結
果的に事後保全にすごくお金を使っているの、予防保全に切り替えて3
割、4割減らすという手はありますね。

A 委 員 集合住宅などですと、量を増やして、それを売って建替えというのがあ

りますけど、学校だと高層化してというのも難しいですね。

委員長 ありえないことじゃないですけどね。ただ、床が売れないので。土地の値段がゼロではないということですね。

事務局 我々がやっていて非常に難しいのは、教育というのは重要な、ある意味国作りの基本ですから、その部分を守るべきものは守ろうと。では、現実を守るためには何をしなければならない、何をしようというところのギャップがあるんですよ。

A 委員長 何にプライオリティーを置くか、学区を守るのか、学校を守るのか。複合化されて下にスーパーができて学校が維持される方がいいのか、そういう何を守りたいのか、優先するかによって変わってきます。

事務局 その時に危機感というのが、今はどうにかなっていますし、少し先までは大丈夫なような気がしますが、その先駄目なんだよというところがなかなか出せない。

委員長 それはここに書いてあることをやればというところに数字が出てないからです。とてもそんなレベルじゃないんですよ。血圧が130なのか200なのかで全然処方箋が違いますので、200なら200だよと言ってあげなきゃならない。医者として、そこまで診断して処方しないと無責任なことは言えないと思います。

事務局 少なくとも学校だけやっただけで21億3千万かかるのに全体の公共施設にかけられるのが15億しかないの、そこでもう破綻しているのがわかるんですけども、こうやった場合にこうなるというのが必要なんですね。

C 委員長 別の視点からよいでしょうか。市の公共施設の大前提が学校を中心にして複合化とか多機能化というのが出ているんですけど、私は今、頭の中にいろいろな学校を描いていったんですけど、例えば児童生徒数が減ってきて、余裕が出てきたところに、公民館や図書館を入れたとして、それはできると思うんですよ。だけでも今の時代は多くの方が車で来ますので、その敷地の中に停められるかという無理があるんですよ。ですから私は児童生徒数の他に校地面積も大事な観点だと思います。市の大前提が複合化といった時に本当にできるのか。学級数が減って、先ほど減築の話もありましたが、ここは学校にしましょう、こちらの方は改築して図書館とか公民館にしましょうといっても、実際は車社会の中で学校の敷地の中では収容しきれないところもあるのではないかと思います。

事務局 そういう諸々のことはプランの問題で、前回は意見をいただきましたように計画を立てれば織り込めるという部分がある。そういうところも考えていかないといろいろなシミュレーションができないということですよ

ね。確かに習志野市の学校には校地の狭いところもあるというのは我々も認識しております、そういった中では今回の議会でもプールを本当に各学校で1つずつ持っていなければならないのかとか、そういった部分も考えていかなければならないと思っております。

副委員長 先ほどの減築というのは学校で必要なくなったところに公共施設を入れていくというのも1つの減築のアイデアですけれども、本当にその施設を無くすというのも減築としてあると思います。プールについてはそういう可能性があるのかもしれない。

事務局 我々も事務局として提言をまとめる側ですから、今言ったようなシミュレーションをなかなか出せなくて申し訳ないですけど。至急、作ってみたいと思います。

委員長 数字ができるかわからないけれども、こういう点は織り込みたいというのが事務局としてあればその議論をしたいと思いますが。

事務局 事務局としては記述のない項目もありますけど、今ある項目で、いただいた意見を加えていけば良いのかと思っています。1点だけ長寿命化の観点のところ弱いので、改築というのが前提なんですけど、国の方の動きでは長寿命化ということで、実際、学校の強度がどれくらいあるのかというのを委託しているんですけど、中間報告ではコンクリートは結構もつという結果になりそうなんです。そうするとすぐに建替えになるのではなくて、やはり適切に状態に合わせた長寿命化、中の機能を変えた長寿命化をすることでやると、その段階でコストが全体を建替えた場合と比べて7割くらいのコストでできるという可能性もありますので。

委員長 ただ、ライフサイクルコストが欠けていて、最初の25年を計算して良くて次の計算をすると困ってしまうこともあるので。

事務局 ところがですね、どうも100年とか、建物の躯体ということで言うはずっと使えるようなことも言われております。

委員長 7割かければ10割増えるということですか。そうであればできるんですけど。

事務局 まだわからない部分もあるので、検証していかなければというのはあります。

副委員長 今の話で、大規模改修は35年、60年で建替えという中で、だんだんメンテナンスのコストがかかるというのはありますけれども、35年で1回改修して、文科省の議論の中でも改修のタイミングをもう1回増やして額を減らすというのがあります。その数字に合わせるのは大変だけれども改修の仕方やその後どう可能性があるかというのはありますね。

事務局 この提言の中ではそこまでやりきれないと思いますが、そういった視点

も提言書の中に入れていただけたら、実際に計画を作る時も考えていきますし、単純に7割でできてしまえば、今21億かかるのが、乱暴ですけど、だいたい14億でできる可能性もあるので、本当かなというのもあるんですけど。

B 委員 今、建っている建物がそのぐらいもつだろうということですか。
事務局 もちろん1つ1つやっていくとわかりませんし、お金をかけていないところはもたないところもあるでしょうが、今、習志野市でやっている調査は古いところを選んでいるんですが、意外とコンクリートは大丈夫そうで、設備は駄目なんですけど。

委員長 老朽化ビジョンで一定の仮定をいってますよね。それでは最長80年まででしたっけ。そういう根拠のある数字じゃないと、それでいいんだったらそれでいいんじゃないかという話になってしまって、他の手段が取れなくなってしまいます。今、地域総合整備財団を出て、文科省の考え方を取り込んだ新しいモデルがありますから、それを標準に、少し長寿命化も出していけばいいのではないのでしょうか。23億が20切るかもしれないですが、その時に期間をみないと先送りしていただくかもしれませんので。

A 委員 調査は全部の学校をやっているのですか。
事務局 かなりの費用がかかりますので、古い小学校を校と中学校1校をモデル的にやっています。

A 委員 想定していたよりももちそうということですか。

事務局 そうです。

A 委員 意外と施工時期で変わって、逆に少し年代が上がってくると良くなかったり、不景気の時に作ったのは良くないとか。

事務局 こういった調査をする中で、都内では棟ごとに建替をしている自治体もあるらしいですが、習志野市では学校の環境という面でいくと棟ごとではなく、建替えをする時は1校を建替えていくというのを考えているシミュレーションになっています。

B 委員 あまり楽観視しないで、今の試算でやって、実際に60年経った時に診断をしたらまだもちそうだというのであれば余裕ができていいんですけど、逆は困るので。

A 委員 プラスもあってマイナスもあって、平均するとだいたい想定通りかもしれませんが。

事務局 一番我々として怖いのは、いろいろな議論があって、それよりは当面でできることだけやっていこうとなって先送りになることが怖いので、計画はちゃんと立てていかないといけないと思ってます。

副委員長 その時に前提条件をきちんとおかないと話が先に進まないですね。今の

35年、60年を前提にして、あらすじはできていますので、数字を置き換えてみて、どうなるかというのがあります。

B 委 員 15ページの②の「児童会」というのは児童館ですか。

事 務 局 放課後児童会、学童のことです。

副 委 員 長 21ページに「現状施設のやり繰り」や「簡易な施設」とかありますが、この辺の表現は学校を粗末に扱っている感じがしますので、変えた方が良いかと。それから23ページの「一定程度の」というのは皆さんが議論して決めたことをはねのけてしまうので表現を変えた方が良いでしょう。それから(2)の2つ目の段落ですけど「喫緊の課題であるトイレ改修など」と「など」がついているんですが、この辺は習志野市の施設整備の状況によるんですが、例えばバリアフリーですとか、防災機能の強化とか、特別支援への対応とか、これも同じだと思うので、「など」で示しているということかもしれませんけれども、何を例示するかで姿勢が伝わるので、検討いただければと思います。それからもう一つ、8ページ的前提2の「保有量の圧縮」の後に波線で「現在保有する施設は全てを更新することは不可能」と書いてありますが、不可能でなく、不要というか不必要というか、できないからではなく、そうする必要はないということ表現すればいいと思います。

A 委 員 24ページの最後に「小中一貫校、中高一貫校など」とありますが、具体的に何かあるんですか。

事 務 局 今のところ無いので、相談させていただきたいなと。

A 委 員 習志野市としての方針なのか、曖昧なところがありますね。こういうものに基づいた統廃合というのになるならわかるんですけど、あまりまた変に出すと、ちょっと違う可能性かなと。

委 員 長 公共施設再生のためにやろうというのではなくて、こういうことが検討されていて、例えば体育館を共用して負担を軽減する効果もあるというくらいは書ける。

A 委 員 ここにあると統廃合の手法として出しているようで。

B 委 員 ここは教育委員会の方でもしっかり位置づけられるという前提で書かないと。カリキュラムに係るものなので「小中学校、中学高等学校等の施設の兼用の可能性」とした方が良くもありませんね。

委 員 長 施設の兼用であれば、もう少し前の方にくるんですかね。

事 務 局 では、数字的なことはできるだけ早く作りまして、ご相談させていただきたいと思います。

委 員 長 今後のスケジュールですが、委員会は本日で終わりますが、提言書がこの状態ですので、事務局の方で個別に皆さんに相談させていただきたいと思

います。月内で完成できますか。

事務局 少し議会の方の対応で遅れましたが、予算委員会も終わりましたので、注力してやらせていただきたいと思います。

公共施設再生計画の方も学校施設が半分を占めていますから、いろいろとシミュレーションをしなければならないのもありますので。

委員長 それでは最終週くらいに皆さんのところにご相談にいくということで、細かな文言も含めて、お気づきの点がありましたら来週早々にでも事務局の方にメールを送っていただければと思います。

ちょっと言葉遣いが硬いかなと。「はじめに」のところはもうちょっと市民に語りかけたい、伝えたいので、ちょっとお役人が書いたようになってしまっていますね。ここは切々と訴えたいですね。事例みたいなものは入れないですか。事例集にする必要はありませんが、例えば他ではこんなことをしてますよとか。全くやみくもにやっているんじゃなくて、しっかり実績もあることをやろうとしていると。手法によっては学校以外のものも含めていくので、固有名詞が出ることによって他でもやっているんだというのがわかりますので。

事務局 我々としても複合化の問題があったので、志木市の複合化施設の視察をしてきたので、そういった事例を出すことはできます。

D 委員 教育の研究者という立場からお話させていただきたいんですけど、提言書の中で「環境」という言葉が出てくるんですけど、教育環境はハードだけではなくソフトとか機能とか利用者がどう使っていくのか、納得するか重要かと思いますが、この委員会の論調としても提言のトーンとしても利用者が一切出てこなくて、なのでお話することがなくて黙っていたんですけど、もちろん数字で説得できることもたくさんありますけど、習志野市の教育ビジョンとか再生の基本的な考え方とか数字で説得できないところもたくさんあると思います。なので、負担者としての意識とか危機感を持たせる数字とかも大事なんですけど、機能は結局、それを使う人がどう納得して使うのかということだと思うので、納得させるということも必要だと思います。

委員長が先ほど全体的に硬いとおっしゃったように、利用者に伝えるような、納得させるみたいなトーンが少しでもあれば、何となく文と文の間から伝わる感じのものがあるんじゃないかなと。

事務局 その伝える時というのは、今、我々が公共施設再生データで示すということで、どうしてもハード的な部分ですけど、利用者の視点から訴えた時、伝えた時にどういう風に伝えていけばいいのか。その面から言うと、質的な向上という言葉とか、硬いんですけど。やっぱり質の向上は図ろうとい

うことは考えているんです。

D 委 員 何となく全体的に、安全安心とか質的というけど中身がないと感じさせるとか、先ほど副委員長が言ったように「簡易な施設」とか、そういう言葉の使い方もそうだと思うんですけど、書き手が思っていれば自ずとにじみ出てくる、具体的な言葉というよりはニュアンスというか、最後の25ページに老朽化対策ビジョンのマインドを書いていかなければならないところも。

委 員 長 公共施設再生計画の前提における「施設と機能の分離」は難しい言葉ですけども、それがもうちょっと具体的にわからないといけませんよね。どうしても「施設と機能の分離」と言った途端にすべてが言い尽くされている感じになっちゃうんですけど、たぶんそれはそうじゃなくて、施設から分離した機能って一体何だろうと。一般論で公共施設全体で言う時は全然いいんだけど、学校で言った時に学校施設から切り離しても十分に成立する、むしろ価値が上がるような機能って一体何なんだろうというところは、むしろ教育委員会の仕事というか発想だと思うんですけどね。今までも別に学校施設が充実していないと教育が充実しないということは言っていないと思うんですけどね。そこははっきりと仕分けた時にどういう教育をするんだというのが、原則のところとか各論のところである程度入っている方がわかりやすいし、実際に話を進めていけるので大変必要です。ちょっと事務局で相談してみてください。そういう意味では施設にこだわらずにこんな良い教育をしている学校あるいは地域とか事例があれば教えてあげると、なるほどそういうものだとなるかもしれません。

A 委 員 24ページの「業務実施体制の充実」のところで「資産管理室との連携を強化」とありますが、今よりもちょっと何かアウトソーシングだとか、FMをやるといような構想ですか。

事 務 局 そこまではないです。

A 委 員 内部の人間の連携を強化するということですか。自治体によっては結構外注してとかも聞きますので、どちらが良いかわかりませんが。

事 務 局 我々もそういったことは考えておりますが、まずは教育委員会と資産管理室の連携をしっかり図ろうということをここでは書いています。

A 委 員 長期ビジョンというのももしかしたらそういうことになりますかね。

- JR津田沼駅南口特定土地区画整理事業の進展に伴う学校等の対応について
〔資料に基づき、事務局より説明〕

- A 委 員 校区の選択制、学校選択というのは検討されていないんですか。隣接校区で選べるようなものは。
- 事 務 局 習志野でも何か所かはあり、前回の資料にもありましたが、向山小学校は全市域から通える学校となっています。
- A 委 員 向山小学校は近いですね。
- B 委 員 津田沼小学校も近いですし、津田沼小学校は新しいので、きれいな学校にいきたいという人もいるかもしれないですし。
- A 委 員 谷津1丁目はいろいろな選択肢があるかと思います。
- B 委 員 増築をしてぎりぎりいっぱいにするのは、それこそ教育の質的な意味では、建物の数を圧縮したいのに増やさなきゃならないというのがありますけど、質も下がると思うので、運用面で柔軟な対応ができないかしらと聞いていて思ったんですけど。
- 事 務 局 30年度までの推計なので、この先どうなるかということのを業者に委託していますので、それからこの先どうするかということも考えなくてはいけないと捉えています。
- 委 員 長 こういうことはよくある話なので、これで全体が壊れるようなことがあってはいけないので。まさに南千住の再開発でできた汐入東小学校がありますが、将来、子どもが激減するのはわかっているんで、最初は増えますが張りつっちゃえば終わりなので、将来、簡単に転用できるようになっているんですね、専用の校庭も持たなくて。そういう意味では従来型の対策になるのかなと。もうちょっと踏み込んだ対策もきっとあると思うので。そういうことをしっかり考えていかないと、全く学校が減らないということになると他のことを相当強くやらなければならなくなりますね。

閉 会

- 委 員 長 それでは本委員会の会議はこれで終了いたします。ありがとうございました。